

第 29 回愛岐処分場専門家会議議事要旨

令和 6 年 2 月 26 日（月）午後 2 時～午後 3 時 30 分
多治見市役所駅北庁舎 4 階 第 3 会議室

委員 埋立状況について、愛岐処分場だけ見るとドラスティックに減っている。
色々な要因があると思うが、愛岐処分場の将来の利用計画が一応期間は埋立終了までとあるが、これだけドラスティックに減ってくるとその期間が長くなる。
今すぐに答えを必要とするわけではないが、計画変更が必要と理解しているのか。
計画変更するのであれば、どういうタイミングでどういう方向で考えているのか。

事務局 埋立期間を変更するタイミングと可能性について、現在地元と約束している期間は埋立終了までとあるので、埋立量がさらに減ってくれば埋立終了までの期間が事実上伸びるのではないかと考えている。今、何年度までと数字と言うのは難しいがおそらく向こう 30 年から 40 年程度埋立が可能と考えており、このことは多治見市、諏訪町の方々に話をしている。
今後、埋立量がさらに減るもしくは災害等で廃棄物を埋立しなくてはならないといった状況等、何か変化があった時には期間の変更も含めて丁寧に説明をする必要があると考えている。

委員 今日すぐに答えは求めていないが大事なことだと思う。5 年間の推移を見て、これだけ減っていれば計画変更しなくてはおかしい。
ただ、計画に埋立終了時とあるから変更しなくてもよいだけで処分場を抱えている地域にとっては大きな問題なのでもう少し踏み込んで検討してほしい。

事務局 検討をさせていただきたいと思っている。愛岐処分場を含めた 3 つの処分場にどのような配分で埋立ていくのか、状況を見ながら今後検討していきたい。

委員 家庭系、事業系のごみをそれぞれどのように削減していく努力をしているのか。

事務局 家庭系ごみに関しては、今年度 4 月からプラスチックの容器包装だけではなく、製品プラも合わせてプラスチック資源として収集を開始している。昨年度は紙製容器包装に加えて雑がみも名古屋市で収集を開始した。このように資源として出す機会を増やしてごみを減らす政策を行ってきた。
ごみの出し方については、若者や単身者に対してマンションやアパートの管理会社等と協力して分別の周知を行った。
事業系ごみについては、食品ロスを減らす取組を担当課が行っている。また、生ごみを資源化できる施設で処理するように事業者にも推奨も行っている。

委員 衣類のリサイクル、リユース、粗大ごみのリユースの取組みに力を入れていただきたい。

事務局 いただいたご意見を担当部署に伝えて、推進できるようにしていきたい。

委員 通常時だけではなく災害時のことも考え、最終処分場を持つということは必要であると思う。地元とも良い関係が築けている状況で、会話のなかで災害時の対応についても話をし、今後検討、対応していくのがよいのでは。

事務局 地元との良い関係を保ちつつ、折に触れて処分場の状況をしっかり伝えていきたい。

委員 観測井の水は生活水に使っているのか。

事務局 諏訪町の調査に使っている井戸の水は生活水としては使用せず、花の水やり等に使用している。

委員 今回の環境モニタリングの結果は特に問題はない。もし、可能であるのなら、12ページの浸出水②生活環境項目等の塩化物イオン、電気伝導率、カルシウムの3項目についても過去3年間の数値があるとよい。資料3-7では塩化物イオンの過去3年間の結果をグラフにしてあり、非常に良い結果でわかりやすくよい。可能であれば浸出水の特定項目についても過去3年間の数値がわかるようにしてほしい。また、予算があれば脱水ケーキの分析も引き続き行ってほしい。

事務局 浸出水の塩化物イオン等の過去3年間の数値について、来年度から資料として提出していく。また、脱水ケーキの重金属類の含有量試験については来年度以降も実施していく予定である。

委員 愛岐処分場に入る焼却灰は、埋められる段階ですでに処理されているのか、それともその時点ではまだいろいろ含有されていてその後の過程で処理しているのか。

事務局 有害物質については工場において計測をしており、異常値が出た時は愛岐処分場への搬入をストップしており、工場において規制をしている。それでも処分場へ搬入された灰やごみに有害物質が全く含まれていないとも限らないため、それらについてどのように除去していくかを処分場で対応している。

委員 49ページ「ごみ質の変化を把握するための資料1」の鉛平均の直近のデータが抜けていると思われるが何か測定されていない理由があるのか。

事務局 データが抜けているだけだと思う。測定は行っている。

座長 次回にデータを入れた資料を提出してほしい。

委員 環境モニタリングの測定について、少し過剰でないかという思いもある。重点的にやるべきことは実施し、メリハリをつけたほうがよいのでは。測定で使用する薬品を廃棄するのも大変なので、無駄な測定で廃棄物を出すことは今の時代は問題であると思う。ゼロにするのではなく、回数を減らしたり集約したりしてはどうか。検討していただきたい。

座長 地元や多治見市の意見も聞き、検討項目として挙げていただきたい。

委員 この会議について、最初設置されてから、浸出水処理施設の流出事故があり、その後は10年くらい安定してきているといった流れを一度整理し、この会議の場で示すことで多治見市としても納得しやすいと思う。科学的だけでなく社会的にも納得でき、信頼できるものを求めていくためには一度振り返り、整理するとよいのではないかと思う。

事務局 おっしゃられるとおり一度整理して、次回の会議で何かしらお示しし意見を伺いたい。

委員 ごみ処理施設見学会に参加した小学校は4校だがそれ以上の参加は可能か。

事務局 希望があれば参加してもらいたい。4、5年生の副読本で環境についても学んでもらってる。学校側が毎年度テーマを決めており、環境以外のテーマの学校もある。

座長 愛岐処分場の施設が今年度完成することですので、来年度の会議を新しくできた愛岐処分場で行ってはどうか。

委員 賛成。ぜひ。

座長 では、来年度の会議は愛岐処分場で行うということで。よろしくお願いします。